

はに『育ってほしい姿は？』

令和2年10月21日

「他の人の意見をしっかり聞き、その意見も尊重しつつ、自分の意見を深められる子」「学習で自分の考えを持てる子 表現できる子」「困っている子に声をかけられる子」

7月に訪れたある小学校の教育目標は「ともに学び ひびきあおう」。学校の先生方の願いが表現されています。

「具体的に、子どもの姿を想像して考えておくと、日常生活の中でその姿が見られたときに、かける言葉が変わってきますよ」と講師が言った。「なるほど。見過ごさずに、褒められそうだ。」と参加している先生。「もっと具体的に考えたら？」「体育や図工などで、自分のやり方だけでなく、他の人のやり方も参考にでき、取り入れられる子」校内授業研究でも、子どもの具体的な姿を想像しながら、授業研究が進みそうでした。



新型コロナウイルス感染症が、まだまだ落ち着かないこの日、昼過ぎの消毒作業を終えて集まっている先生方の表情は明るい。子どもたちの姿を想像しながら、自分たちも考えを伝えあっている時間は、先生たちにとって幸せで大切な時間です。

「子どもたちの『ともに学び ひびきあおう』という姿を、様々な場面で見たいけど、この状況の中でどうすれば？」「グループで意見を伝え合うことも、なかなかできないし……」

新しい生活様式の中での、子どもたちが主役になる学びの在り方を考えています。「書いた意見を壁に貼り、同じ方向を向いて意見交換はできないか？」



早速、自分たちでもやってみます。つい、相手の方に体を向けてしまうけど、それは、今までの生活で大切にしてきた、相手を思う気持ちの表れ。「自然に体が動いて、相手に向いてしまいますね。子どもたちもきっと同じ。その気持ちを大切にしつつ、今は向き合わないよう注意を促すとよいですね。」講師が助言していた。

消毒作業、新しい生活様式への対応など、考えなければならないことは山積みですが、子どもたちが再び通い始めた学校では、楽しそうに考えている先生たちがいます。

『はに』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合きましょう。

ご意見・ご感想は → inochi4027@pref.kanagawa.jp